

英語学概論(第3講)

英語の発音とスペリング

本講で学ぶこと

- ▶ なぜ、英語は発音通りに書かないのか。
- ▶ なぜ、make はマケと発音しないのか。
- ▶ 英米で単語のスペリングはどのように異なるのか。



ローマン・アルファベットと正書法

- ▶ 古英語の時代→ルーン文字を用いていた。（その名残として、write はルーン文字を石版などに彫りつけること、read は秘密であるルーン文字を読むこと、bookは文字を彫り込む板のことである。
- ▶ その後は、キリスト教の修道士の手を借りてラテン語の文字を使い始めた。
- ▶ 書写生(scribe)と呼ばれる人々がその修道院ごとの習慣で書いていた。

中英語の時代（1150-1500年）

- ▶ ノルマンコンクエストにより、フランス語の影響力が広まる。
- ▶ ou house, hour
- ▶ oi noise
- ▶ -y boy lady
- ▶ -ce dance
- ▶ c- city
- ▶ 1476年、ウィリアム・カクストンがウエストミンスターに印刷所を開く。これにより、一冊一冊、書写生が書いていた書物が大量に廉価に人々の手に届くようになった。




当時の書き言葉の問題点

- ▶ 地域や階級などで異なる言葉遣いの中で、どれを採用したらいいのか。
- ▶ どのような正書法を用いたらいいのか。
- ▶ 大文字や小文字の使い方、句読法(punctuation)も定まっていなかった。



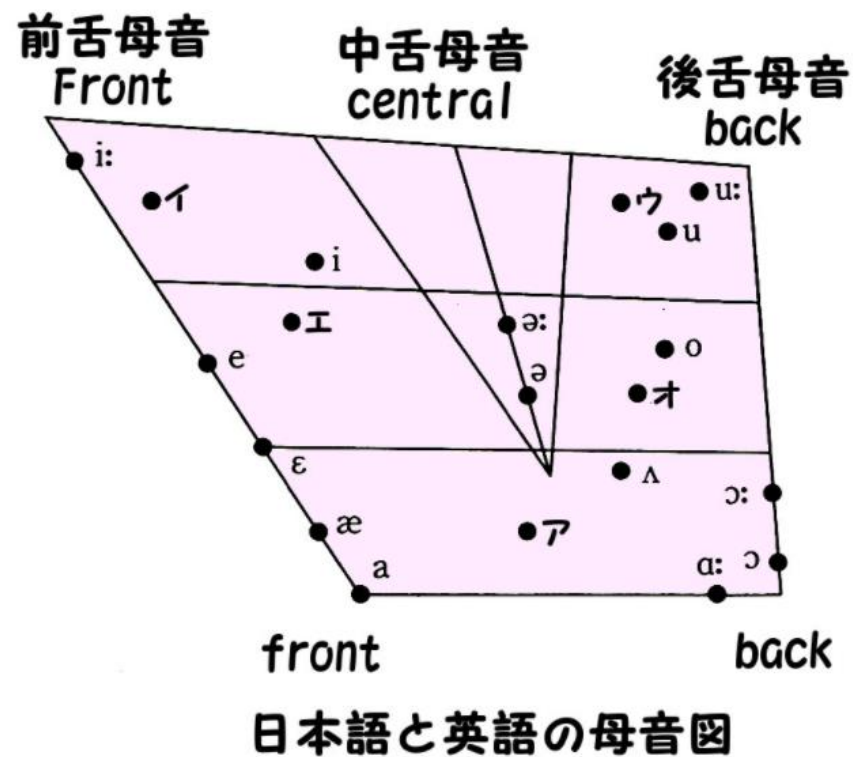
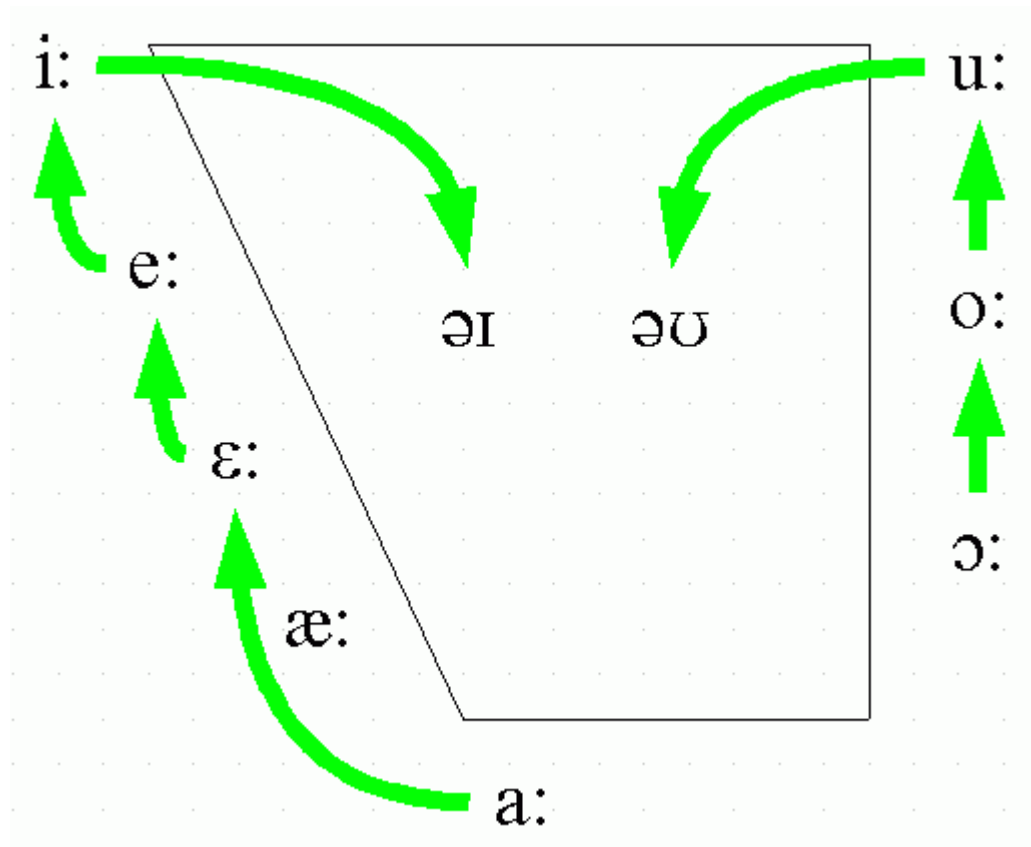
音声の変化

- ▶ 書き言葉は固定化される傾向にあるが、話し言葉は変化する傾向にある。
- ▶ 母音変異(mutation):
- ▶ 古英語以前に起こった音変化の現象
- ▶ manの複数形：manizと当初発音していたが、 aはかなり大きく口を開けて発音する音である。iは口をかなり狭めて発音する。無意識にiの準備をしてaを発音するときに、少し口を狭めて発音するようになった。そして、最終的には、iとaの中間のeに落ち着いた。
- ▶ 同様に、tooth/teeth mouse/mice のような不規則な複数形ができた。

弱母音化

- ▶ 話すときに一番よく使われるのは、曖昧母音と呼ばれている /ə/ schwaを用いる。強勢がない母音はすべてこの音になってしまう。
 - ▶ Shakespeareの時代は、今よりは母音を丁寧に発音していたが、これらの母音は弱音化している。
 - ▶ 1つの母音がschwaに変化していくのは時代の傾向である。
- ▶ stanas stones stones
- ▶ modor moder mother

大母音推移



大母音推移の及ぼした影響


- ▶ 大母音推移は、英語の発音の大変化であった。
- ▶ 15～17世紀ごろにイギリスで、長母音(long vowels)の舌の位置のほとんどが、いつのまにか順に繰り上がる現象が発生した。
- ▶ これはthe Great Vowel Shift(大母音推移)と呼ばれている。
- ▶ 18世紀まで数段階を経て変化を続けた音もある。

文字と発音があわない理由


- ▶ 英語がラテン語の文字を採用した。
- ▶ 中英語末の表記法が、印刷技術の発展と共に固定化した。
- ▶ ある程度の法則性が保たれたので、教育の普及によって書記法が安定した。



ウェブスターの辞書の影響

- ▶ ノア・ウェブスターはウェブスターの辞書(An American Dictionary of the English Language)を作成する際に、スペルの改革をおこなった。
- ▶ colour centre, travelling, organise
- ▶ ↓ 
- ▶ color, center, traveling, organize

フォニックス

- ▶ フォニックス（英: Phonics）とは、英語において、綴り字と発音との間に規則性を明示し、正しい読み方の学習を容易にさせる方法の一つである。英語圏の子供や外国人に英語の読み方を教える方法として用いられている。
- ▶  フォニックスでは例えば「発音 /k/ は c, k, ck のどれかで書かれる」のように、ある発音がどの文字群と結び付いているかを学び、それらの文字の発音を組み合わせることで知らない単語の正しい発音を組み立てる方法を学ぶことができる。


likeをどのように発音するか。

- ▶ フォニックスで、「好き=ライク=Like」を例に考えてみる。
- ▶ この単語には、「サイレントe」というフォニックスのルールが使われている。
- ▶ 「サイレントe」とは、単語が「母音+子音+e」の並びになっていると、最後のeの音はサイレントになり、さらに母音の部分を「名前読み（アルファベットの読み方）」にして読む、というルールである。
- ▶ そのため、「Like」は、「Li」で「リ」ではなくiの部分が「名前読み」になって「ライ」となる。
- ▶ さらに、後半の「ke」は「ケ」ではなく、eの音は発音しなくなるので「ク」だけが残る。
- ▶ 参照→ mat/mate pin/pine tap/tape cap/cape

黙字の存在

- ▶ 英語は正書法の改革の類を経験しておらず、綴り方においては非常に保守的であるために黙字が非常に多いが、それらはいくつかの種類に大別することができる。以下、例語を示し、黙字を太字で表す。
- ▶ high, know, **gnaw**, write, often, castle, climb, **walk** などの各子音字。
- ▶ ほかの不規則的な例としては sword, Wednesday などもある。

カタカナ語の存在

- ▶ 日本人の英語学習者にとって、カタカナ語の存在は諸刃の剣である。便利でもあるが、不便な面もある。
- ▶ ベール、エネルギー、ガイド、レジャー、リズム
- ▶ veil, energy, guide, leisure, rhythm 

課題

- ▶ イギリス英語とアメリカ英語の書記法の異なる語を5つ挙げよ。
- ▶ flower, flour のように同じ発音で異なったスペリングと意味を持つ語を5つ挙げよ。

